
BABYRON 第2部

みづき海斗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

B A B Y R O N 第2部

【Nコード】

N 4 7 5 8 M

【作者名】

みづき海斗

【あらすじ】

感情が高ぶると空気中にあるリチウムやウラン、重酸素などの核物質を吸収し自ら『核熱源』となり周りの物を『燃やしてしまう』という能力を持つ貢。その謎を握るのが『混乱^{バベル}』という言葉・・・

近未来SFファンタジー『BABYRON』第2部スタートです。

1 ゲーム（前書き）

B A B Y R O N 第2部です。ちなみに第2話はまだプロットも大
体しかたってません

（自爆（|¥）。。）
（

1. ゲーム

あの『事件』から半年程経っていた。

浅井 啓警部は刑事に昇進していた。しかし実際はSPで、今、ある要人の警備をしている。

スーツ姿にネクタイで、

「毎日暑苦しい。」

と、夏を迎えながら呟く。

啓は都内にある自宅のマンションへ、深夜、帰る度にそう呻いている。

一方、貢はというと1日中クーラーの利いた室内でタンクトップ姿にGパンのまま、

「お帰り、啓。夕食買って来ておいたよ。」

ガラスのテーブルの上を指示す。

そこには、2人分の『オリジン弁当』の男爵コロッケ弁当。『値引き50円』としっかり赤いシールが貼ってある。

「どうも」

啓はネクタイと上着をとった。「何してんの？」

「ん。携帯ゲーム。」

振り向きもせずにそう答えた。家にはPCも『アイ・パッド』もあるが、今の貢にとっては携帯ゲームの方が興味あるらしい。ここ数日、こんな調子が続いている。

「昼間、何してんの？」

「MACの3Fで携帯ゲーム。」

ピコピコと指先を動かす。

「そう。じゃ、俺先にシャワー浴びてくるわ。」

「うん。」

貢は相変わらず携帯の画面を見つめたまま。

シャアー……

温度設定を低めにして、啓はシャワーを浴びていた。

「俺、『警部』で良かったのになー。」

いつもの、のんびりした口調で呟く。「貢が羨ましいよ。」

啓はお酒をやらないタイプなので素早くシャワーを浴びると、Gパンに白いTシャツに着替え、冷蔵庫からミネラル・ウォーターを取り出した。

一気に飲み干し、

「はー、生き返った。」

白いタオルで髪の水滴を無造作に取る。

再び、15畳程のリビングへ姿を現すと、

「まだ、夕食食べてなかったの？」

携帯ゲームに夢中な貢に声をかける。

「うん、今、『お宝』守るのに大変だから。」

「そんなに面白い？」

「………っつーか。」

貢は付いていないTVの前で初めて振り返り、「やる事ないじゃん、俺。」

「そだねー。」

啓は苦笑した。

感情が高ぶると空気中にあるリチウムやウランを自ら『核融合』させ、周りのものを全て『焼いて』しまう、という貢の『体』の謎は未だ解けていない。

『Come Back See You.』

そんな『全ての謎』を握っている貢（拓也）の『兄』 拓未の動きを考慮して、SWAP（警視庁特別行動部隊）も防衛省も彼の行動範囲を限られたものにしていった。自然、『事件』への関与も少

なくなった。

「貢、いつまでも遊んでないで、早く食事取ろうぜ。」

テーブルの前で立て膝で啓がそう伝える。

「ん・・・じゃ、シャワー先に浴びてくる。」

「まだだったの？」

「啓が帰るの待ってた。」

貢は立ち上がり、テーブルへと近づき、携帯を啓に差し出した。

「『お宝』盗まれちゃ困るから。」

につこり、と笑って、「その間、『お宝』守ってて、啓。」

「仕方ないね。」

携帯を受け取り、既にシャワー・ルームへ向かった貢に声をかける。

「俺、こーゆーのやった事ないんだけど。」

「とにかく、何処からアクセスが あ ったら、ぶちつ、と『

キー

押してプロフィール見て。それで、敵か味方か区別するの。」

「そう。」

「そう。」

貢はシャワー・ルームに入って行った。

「俺、お仕事もう終わりなんだけど。」

ゲームの内容が内容なので、まるで政府要人をSPしてる啓自身の『仕事』とだぶって見える。

『オリジン弁当』を目の前に、ミネラル・ウォーターを飲みながら、

「あ。これね。」

新しいアクセスがあつた。

『キーをぶちつ、と押す。』

「こんなの1日中、やってんの。」

敵だった。削除キーを押して、相手を『倒す』。何処をどうしてるのか、アクセス数は10万を超えていた。「・・・今夜

中、これやんの?」

また、アクセスが来た。

「はいはい。」

啓はミネラル・オーターの続きを飲みながら、「今度はだーれ。」のんびりした口調で呟く。

『プロフィール：H・N・BABYRON』

「・・・」

そう表示された。

「啓、夕食食べよう。」

シャワーを終えた貢が声をかける。

「貢。」

今度は啓の方が振り返らずに、「このゲーム、いつからやってんの?」

「んー。3日前からかな?メール見たら面白いゲームがあるっていう

内容だったから、そこにアクセスしてみたんだ。」

「そう。」

啓は突如黙った。そんな啓の様子に気付き、

「どうしたの、啓。そんなにハマる?」

「ハマるも何も。」

啓は振り返った。その目が細められる・・・貢。お前、俺と同じ人

『守って』るんだぜ。」

「はい?」

訳解らないという表情で貢が答える。「どういう事?」

時計の針はPM11:00を過ぎていた。

「俺が今の『人』の警護を始めたのが3日前。お前がゲームを始めたのも3日前・・・そこでどうしていきなり10万アクセス行くの。」

「・・・」

「そして」

彼は、その H・N 『BABYRON』 からのメッセージを貢に見せた。

そこには、

『強いね、貢。ずっと見ていたよ。』

そう書かれていた。

「・・・・・・」

啓は無言の貢に携帯を渡すと、「ちょっと『守ってて』くれない？」

そして、ベランダの方へ行き、閉められた白いカーテンを左右に開き、

ベランダへと出た。

12階下の路上を見降ろす。

そこへ、

るるる　　るるる・・・・・・

啓が持つ携帯が鳴った。

「もしもし」

彼はのんびりした口調で、「やっぱりあんたか。」

眼下には僅かな電柱の灯りしかない。

『待つてたよ、浅井　啓刑事が戻るの。』

その姿を探すが、暗くてもう解らない。

「何を今度は企んでる・・・貢を『仲間』に引き入れて。」

『ただのゲームじゃないか。』

くすくすと笑う声が聞こえる。『警部だけじゃ面白くないだろうから、貢にもゲームに参加してもらってるだけ。』

「どうしたの？啓。」

その会話に貢はベランダへ近づいた。

「来るな。」

啓は静かに言った。「お前はゲームを続けてろ。」

「何事。」

貢は目を丸くした。

「貢、『お宝』を守るんだ。」

『そこなくっちゃ。』

携帯の向こうで、BABYRON 八木拓未の声が聞こえた。『

一人でもゲームに参加してもらわないとショーは面白くない。』

「目的は。」

啓がそう言った時。

ジー ジー ジー

携帯が切れた。

「.」

アンテナは3本立っている。啓は、そのまま、警視庁への電話をかけた。

「あ、警視庁官？ちよつと官房長のSP増やしてくれる？俺も今すぐ邸宅に戻るから。」

それだけ言つて、今度は啓の方が携帯を切った。

そして、先刻まで来ていたスーツを黒いソファから掴み取る。

「出かけるの？啓。」

訳解らない、という表情で貢が尋ねる。

「ちよい、ヤボ用。」

素早く着替えながら、「貢は『BABYRON』の動きを監視していてくれ. . . 俺はちよつと出かけてくる。ちゃんと、飯食うんだぞ。今日は帰れないかもしれない. . . 何か『動き』があつたらすぐに俺の携帯に連絡入れてくれ。」

「うん。」

それだけ言つと、

「じゃね。」

ボタン

重い玄関の扉が閉じられた。

啓は携帯に視線を戻し、先ほど啓が指示した『H・N : B A
BYRON』の
プロフィールを見た。

そこには、『味方』の表示と『お宝と一緒に守りましょう。』の
文字。

「・・・」

啓は無言で『削除』キーを押した。しかし、すぐにまたアクセス
があった。

H・N は 『B A B Y R O N』。

1 ゲーム（後書き）

3 本小説をかかえてしまいました（自爆）感想、ご声援お待ちしておりますvv

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4758m/>

BABYRON 第2部

2010年10月9日03時40分発行